

調査 No	調査項目	調査校				
		A	B ₂	B ₁	C ₂	C ₁
Ⅰ						
14	表記上の符号を使いこなす					
15	正しい発音で話す能力	○		○		
16	明瞭な発音で話す能力	○	○			
17	文の形で話す能力	○	○	○		
18	適切な抑揚をつけて話す能力		○	○		
19	品詞を見わける能力	●	○	●		
20	活用形を指摘できる能力	○	●	●		
22	敬語を使いこなす能力	●	●	●	●	●
23	共通語を使いこなす能力	○			○	
34	事実や意見を正確に書く能力	●	●	○	○	○
36	目的・必要に応じた形態で文章を書く					
38	正確にききとる能力	●	○	○	○	
39	理解して聞く能力	●	●	○	○	○
40	判断して聞く能力	●	●	○	○	○
41	場面にに応じて話す能力	●	●	●	●	○
42	目的に応じて話す能力	●	●	○	●	○
43	内容を適切に組み立てて話す	●		●	○	○
Ⅱ						
6	生活文を書く能力					
7	通信文を書く能力					
8	記録文を書く能力					
9	報告文を書く能力					
10	説明文を書く能力					
11	感想文を書く能力					
12	意見文を書く能力					
13	感想を書きあらわす能力					
14	あいさつの能力					
15	対応の能力					
16	会話の能力					
17	話し合い・討議の能力					
18	報告・説明の能力					
19	会議の能力					
20	朗読の仕方					

(●は、差が20をこえるものであることを示す)

プラスの差とは、もちろん高校教師の生徒の能力に対する意識が、中学のそれより低いことを示すものであって、高等学校の国語教育で入学後と

りあげて指導することの必要を示すものとみてよいと思う。

もっとも、高校の教師の認識が、実際の生徒の力よりも低くなっているということも考えられる。

そこで、学力テストもあわせておこなった項目については、さらに、その結果が全体平均63.14をこえない項目についてとり出し、こえているものは、一応、能力はあるものと見なすこととした。

また、学力テストのない項目については、そのプラスの差が20をこえる項目についてとり出し、こえていないものについては、一応除外することとした。

こうして、とり出された項目を整理してみると次の通りである。

(図4)

入学後指導を必要とする国語能力						
領域	調査項目	A	B ₂	B ₁	C ₂	C ₁
かく	送りがなを正しく使える能力	///	///	●		●
よむ	段落の相互関係をとらえる能力	///	●	●		●
かく	句読点を使いこなす能力	///	●	●		●
かく	形の似た字を書きわける	///	●	●		●
かく	同音異義の漢字を書きわける	///	●	●		●
〃	音読みする漢字をかく能力	●	●	●		●
〃	類義の漢字をかきわける	●	●	●	●	●
〃	語句の照応を正しくしてかく	●	●	●	●	●
〃	文の成分の順序を組み立てる	●	●	●	●	●
〃	表記になれ、くぎり符号を適切につかってかく	●	●	●	●	●
はなす	敬語を使いこなす能力	●	●	●	●	●
よむ	文体の特徴に注意して読む	●	●	●	●	///
かく	きめられた字数でかく能力	●	●	●	●	///
〃	段落ごとにまとめてかく	●	●	●	●	///
はなす	場面にに応じて話す能力	●	●	●	●	///
〃	目的に応じて話す能力	●	●		●	///
かく	訓読みする漢字をかく能力		●	●	///	///
きまり	活用形を指摘できる能力		●	●	///	///
〃	品詞をみわける能力	●		●	///	///